

研究室報告

- ① 今年度は、沼田一郎教授（国内特別研究）が研究に専念するために講義等を担当しなかった。
- ② 今年度は新入生歓迎行事として四月二十二日（日）に「新入生研修旅行」を行い、哲学堂公園、江戸東京博物館、上野国立博物館を見学した。東洋思想文化学科一年生のガイダンスとして実り多い見学会となり、また学生相互あるいは教員との交流を深めることができた。関係者各位には厚く御礼申し上げます。
- ③ 今年度予定されていた海外文化研修（韓国）は参加者確定後に辞退者が発生したことにより、最少催行人数を下回り、取りやめとなった。
- ④ 本年度、大学院（インド哲学仏教学専攻）の公開研究発表会を春学期（七月四日）と秋学期（十一月二十八日）に開催した。春学期は、交換留学生および新入生研究計画・李鴻・村田啓輔・カムピラー・アイラダー（M2）「パリー文献における四諦十六行相の研究」・是松宏明（M2）「ジャイナ教におけるdhyānaの研究——空衣派Subhacandra（約十一世紀）著Jñānavaṃśiにおけるvipaśyāna-dhyāna」・針貝京子（M2）「成就法の花環」No.110「金剛ターラー成就法」について」・谷釜智洋（D1）「大正期を中心に活動した真宗大谷派「仏教

学会」の研究——「仏教学会」が「御大典」待受けに果たした役割」・梅田愛子（D2）「『維摩經』の菩薩」・崎山忠道（D3）「『稲半經』漢訳諸本の構成とその思想」・藤井明（D3）「インド密教における肉の売却——プラーターマラ・タントラ」内の修法を中心として」・また秋学期は、蓮見太郎（M2）「『ブッダヴァンサ』におけるśālistamaya-paricheḍaの研究」・星宮康子（M2）「インドのśrāvaṇa論——「留命行」と「捨寿行」をめぐって」・高木洋介（M2）「アーリヤデーヴァに於ける否定の思想——『四百論』第一六章における主張（pakṣa）を中心に」・藤井明（D3）「ヒンドゥー教版Bhūtiśāmarantaの性質と特徴」・伊藤頼人（D3）「『マハーバータ』一五卷三十五章におけるタルマ神」。また両発表大会に、学外講師をお招きし御講演戴いた。各大会の講師名、所属、講演テーマは以下の通りである。

- （春学期発表大会） 齊藤明先生（国際仏教学大学院大学教授）「如来藏（ratnagatagarbha）とは何か——『宝性論』の如来藏解釈考」
- （秋学期発表大会） 森雅秀先生（金沢大学人間社会研究域・人間科学系・フィールド文化学コース教授）「女性の姿をした仏たち」
- ⑤ 両先生には厚く御礼申し上げます。
- 七月二十九日（土）開催の白山中国学会において、大学院生（中国哲学専攻）の研究報告・研究発表を行った。博士前

期課程の研究報告は、【M1】于森「中日戦争中の老舎小説における「葛藤する思考」について——『四世同堂』を例として」、樊玉文「漢樂府詩研究——「陌上桑」と「羽林郎」の比較を中心として」、【M2】王蘇駿「老子道德経」における「無」について、李慧淳「過小評価された王朔の作品」、車曉威「魯迅の散文詩集『野草』の生命哲学を論じる」、龐芮「郁達夫における女性像——作品集『沈倫』から」、常天天「巴金『寒夜』研究——「好人」にもたらされる悲劇の意味」、豊田尚徳「康有為の大同思想形成の過程」。博士後期課程の研究発表は、【D1】黒田祐介「朱熹における『孟子』の「赤子の心」解釈について」、余祺琪「朱熹・陸九淵・王陽明の中和問題について」、【D3】志村敦弘「王守仁の聖人論」。その後、基調講演として、坂井多穂子（本学科准教授）『乾淳』と『元祐』——南宋詩人は北宋詩人をどう見たか」、市來津由彦（二松学舎大学文学部特別招聘教授）「朱子学の言葉・陽明学の言葉」のお二方に御講演いただいた。なお、二〇一九年三月一六日（土）に開催する白山中国学会においても、大学院生の研究報告・修論発表を行う予定である。

⑥ 一〇月十一日（木）四限（『中国哲学史B』）の時間に、銭明先生（浙江省社会科学院研究員）を招聘して、「現代中国大陸の陽明学フリーバー」という演題で、公開学術講演会を開催した。多数の方に聴講していただき、質疑応答も活発に行われた。

⑥ 本年度のティーチングアシスタントは、カンピラー・アイラダー、黒田祐介、佐藤智博、澤田容子、志村敦弘、藤井明（五〇音順）の各氏が担当した。

⑦ 本年度の卒業論文・制作の提出者は、第Ⅰ部東洋思想文化学科では一〇八名、第Ⅱ部東洋思想文化学科では一六名、また第Ⅱ部インド哲学科では二名であった。大学院の修士論文提出者はインド哲学仏教学専攻では六名、中国哲学専攻では三名であった。本年度の優秀論文に対する褒賞は左記の通りである。

【校友会奨学基金】

学部 稲垣 基（Ⅰ部）、佐藤亜美（Ⅱ部）
大学院（インド哲学仏教学専攻） 是松宏明
（中国哲学専攻） 樊 玉文

【勸学奨学基金】

学部 齋木優愛（Ⅰ部）、林 拓哉（Ⅱ部）
・田村芳朗奨学基金
学部 寺崎大典（Ⅰ部）、森田晃成（Ⅱ部）
大学院 蓮見太朗

*二〇〇〇年四月から二〇一三年三月まで、文学部中国哲学文学科に所属されていた山岡景行先生が、二〇一七年十一月二十八日に、ご逝去されました。享年七十二歳。生前、親しくされていた先生方から、追悼の辞が届きましたので、ここに掲載させていただきます。ご冥福をお祈り申し上げます。合掌

山岡景行先生を偲ぶ

野間信幸

山岡先生はかつて「東洋大学の良心」ということで、当時社会学部の教授であった稲木哲郎先生（現名誉教授）の言動を、真つ当に評価されていた。他者への評価は、往々にして自分の姿を反映してしまうものだ、と私は思う。山岡先生は、クリスチャンであった稲木先生とは思想信条が異なっていたと思われるが、それでも両者には相照らすものが存在していたのである。それは弱者に寄り添おうとする姿勢であったり、権力者やそれに媚び入る俗物たち（魯迅の言う「奴隸の主人」）と一線を画そうとする、毅然たる態度であったりする。いずれも人としての存立に関わる根本的なところといえよう。山岡先生もまた、どのような局面にあつても良心を貫く矜持を持ち続けられたことで、私は「東洋大学の良心」であつたと思う。

生物学を専門分野とされた山岡先生が、まったく分野の違う

文学部の中国哲学文学科に所属されることになったのは、大学の組織改革に伴う教養課程廃止によるものであった。二〇〇〇年四月のことである。それまで自然科学分野の責任者を長く務めてこられた先生にとつて、五十五歳を過ぎてからの所属転換は、あまり居心地の良いものではなかったと思われる。それでも先生のお人柄によるものであろう、新たな所属先に先生は軟着陸を果たされた。この時の出会いがご縁となつて、数年後に私が学科主任を務めることになると、陰になり日向になつて励ましてくださり、支えてくださることになったのである。

晩年の先生は、教授会で「ご意見番」の役目を自ら任じられていた。損な役回りである。百名を超す大所帯で、議事の進行を止めて疑義を質するのは勇気のいることだ。また、それだけのエネルギーを要するし、発言内容にその必要性と責任を求められることにもなる。こんな圧迫感に抗しながら真つ当なことを述べようとするのは、使命感なくして行えないことである。そんな「ご意見番」を引き受けようとする人は、もう出てこないかもしれない。山岡先生はこうして、教授会を思考停止から度々救われたのである。山岡先生の手が上がると、明らかに怖がつてしまう学部長もいた。山岡先生の存在感に、圧倒されていたのであろう。

いっぽう学生には、優しく接しておられた。とりわけ行き場を失った学生には、専攻を超えて温かく手を差し延べられ、居場所を与えておられた。そのうえで学生の立ち直りを手助けさ

れ、やがて学生が帰還しようとする際にはそつと背中を押されていた。じつさい副専攻で生物学を学んだ学生のなかには、山岡先生を生涯の師として慕う学生もいたのである。そんな先生の佇まいには、大学の教員としてあるべき姿がよく表れていたと思う。なかなか真似できることではないが、身近に先生がいてくださったお蔭で、学生への接し方で大切なものを見失わずに済んだことが何度もあった。

最後に学科での先生のお姿をいくつか並べ、感謝の気持ちを記しておきたい。私は二〇〇二年四月から十一年間、中国哲学文学科の主任を務めた。十一年目は山岡先生の退職の年であり、また学科統合により中国哲学文学科が消滅した年であった。この間山岡先生は学科会議に律儀に出席され、私の覚束ない学科運営を助けてくださった。ただしご自身の立場と直接関連しない議題には、一切口出しをされなかった。常に公平な目線で学科の有り様を見守ってくださったので、人事の際には学科内での監査役をお願いしたこともあった。投票権を持たない面倒な役目であったと思うが、快く引き受けてくださった。今でもいけばん感謝しているのは、学科の意思を無視した統合が強行された時、類（くずお）れた妥協を図るよりは抵抗しながら減んでゆこうとした学科の方針に、理解を示してくださったことだ。先生は「統合は嫌がる結婚を無理にさせるようなものだ」と仰って、負け戦に最後まで支援をしてくださった。理不尽なことにはけつして与しない山岡先生の支持

に、どれほど勇気づけられたことか。客観的な判断が必要な時に、先生の存在は心強かった。あれからいくつもの歳月を経たが、先生への感謝の念はいまだ色褪せることはない。

こうしてみるとやはり山岡先生は、「東洋大学の良心」を体现された教育者であり研究者であつたといえよう。どうぞ安らにお眠り下さい。合掌

二〇一八年十二月

（元中国哲学文学科主任）

山岡景行先生を偲ぶ

米山忠興

東洋大学自然科学分野の生物学担当の山岡景行先生が2017年11月28日に、満72歳で亡くなりました。謹んでお悔やみ申し上げます。

私が東洋大学に1977年に赴任して以来、同学年ということもあって、ずっと親しくして頂いておりました。初めの頃、自然分野の会議に出ると、虎尾・大野・生沼という大先生方が、大学や自然分野のとるべき方向をどうするかというような議論をするとき、多くの場合の最後の決め手は、山岡先生の意見を聞くことでした。それだけ自然分野の仲間の先生方に頼りにされていたのです。先生の情報収集や情勢分析はとても適切で、我々はいつもその判断を頼りにしていました。

先生の神経生理の理論と実験的研究は、実験設備の工作に必

要な電気機械まで、深くしかも幅広い学識と応用力を備えていました。一応物理系である私もいづものなるほど納得させられていました。さらに、パソコンがあまり得意でない私にとつては、非常にありがたい指導者でもありました。

ご夫妻は、おもに大学の同級生だった奥様のご希望らしく、季節の草花を鑑賞するために、各地を旅行なさっていたようで、花の季節には、よくその旅行の話をお聞きしたものでした。

若いころからのロサンジェルスのご共同研究者のアドバイザーとして研究を続けたいという思いもあつて、大学を定年より2年早く退職して、さらなる飛躍を考えていたようですが、奥様のご病气や、共同研究者の死亡などによつて、思っていたようには事が運ばなかつたようです。

そんな時、今からおよそ2年ほど前に胃がんが見つかつて、手術そのものは、成功したようですが、おそらく、転移していたのだらうと思われまふ。そして先生とさいごにお話ししたのは、来週から抗ガン剤の投与が始まる、とお聞きした2017年4月5日の電話でした。

さらにもう一仕事と思つて、果たせなかつた無念さは、拝察するに余りあります。ここに謹んでお悔やみ申し上げ、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(自然科学分野の元同僚)

山岡先生のショウジョウバエ

手塚洋一

山岡先生が暮れになると大腸ポリープの除去のため、毎年入院されていたことは承知していましたが、米山先生から亡くなられたという連絡をいただいた時にはびつくりいたしました。まだお元気でいらしてるとばかり思つておりましたので。

私が東洋大学の教員になった時、自然科学分野の主任が山岡先生でした。面接の時に、積極的に研究することを期待しますがと言われたことを覚えております。当時の自然分野の最年少が同い年の米山先生と山岡先生で、山岡先生が言われるには数か月米山先生より若いそうです。やつとき使える年下ができたか(山岡先生がおっしゃったのではなく、私の印象です)と喜んでおられました。理論物理が専門の私からは理科の中でも最も速い分野である生物学の山岡先生から多くのことを教わりました。

当時の実験室では保冷庫の中で山岡先生自慢のショウジョウバエが飼育されていました。学生食堂などでこばえなどが見つかるのとよく学生は実験室からショウジョウバエが逃げ出したのではないかと噂をしておりました。山岡先生に聞きますと、実験室のショウジョウバエは20℃以上になると仮死状態になるような遺伝形質を持っているので、逃げ出しても食堂を飛び回るようなことはありません。

教養課程解体の時期にちよと順番で分野主任をしていた私の自宅に山岡先生からよく電話がかかってきました。(当時は携帯電話もなく、メールも使い勝手の悪いものでした) 測ったように私の帰宅直後でした。私が委員会に出席した直後でも山岡先生はその委員会で何がどのように話されたかを把握しており、適切な意見を述べておりました。その情報網のすごさに感心しておりますと、うちの奥さんはショウジョウバエをばらまいて情報収集しているに違いないと言っていました。懐かしい思い出です。

山岡先生のご逝去にまだまだ戸惑っております。

(経済学部 自然科学研究室)

二〇一八年度業績（二〇一八年一月～十二月）

伊吹 敦

○研究活動

〈論文〉

- 「禪研究の意義と国際的禪研究ネットワーク構築の必要性」武
漢大学国際禪文化研究中心と「東洋大学国際禪研究プロジェクト」
〔初期禪宗と「般若経」〕（『国際禪研究』創刊号、二〇一八年二
月、七五～九三頁）

- 「支那内學院における日本佛教學受容の側面―呂澂編譯『印
度佛教史略』に見る原書の改變を中心に」〔『東洋思想文化』五、
二〇一八年三月、五八～九八頁〕

- 「浄覚 注般若波羅蜜多心經」（渡辺章悟・高橋尚夫編『般若
心經註釈集成（中国・日本編）』起心書房、二〇一八年七月、
二九七～三三七頁）

- 「胡適の禪研究の史的意義とその限界」（駒澤大學佛教學部論
集）四九、二〇一八年一〇月、三五六～三七二頁）

- 「人間佛教における禪評價の問題」（『国際禪研究』二、二〇一八
年一〇月、三一～六三頁）

〈その他〉

- 「仏教界の覚醒と禪（中之下） 要説・中国禪思想史 五二」（『禪
文化』二四七、二〇一八年一月、一〇四～一四頁）
「仏教界の覚醒と禪（下之上） 要説・中国禪思想史 五三」（『禪
文化』二四八、二〇一八年四月、一〇二～一二頁）
「仏教界の覚醒と禪（下之下） 要説・中国禪思想史 五四」（『禪
文化』二五〇、二〇一八年一〇月、一三〇～一四二頁）

〈翻訳〉

- 「黄青萍著「敦煌文献に見る北宗禪とその研究の意義」」（単訳、
『国際禪研究』二、二〇一八年一〇月、九九～一二五頁）
「張超著「禅林筆記と大慧派の禅僧仲温晩塾」」（単訳、『国際禪
研究』二、二〇一八年一〇月、一九九～二三三頁）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

- 日本佛教学会（理事）／日・韓・中国際仏教学術大会（幹事・
編集委員）／東アジア仏教研究会（役員）／日本印度学仏教
学会（会員）／仏教史学会（会員）／早稲田大学東洋哲学会
（会員）

学会発表等

- 「井上円了の仏教理解とその影響―近代中国仏教との関連を
中心に」（二〇一八年九月二日、日本印度学仏教学会第六九
回学術大会、パネルC代表者、発表題目「近代仏教における
井上円了の位置づけをめぐって」、東洋大学二〇五教室）

「佛教は哲學なりや宗教なりや（上）——近代日本における佛教の宗教化と禪宗・眞宗の一元的理解の誕生」（二〇一八年一〇月一三日、國際禪研究プロジェクト定例研究会、東洋大学文学部会議室）

「佛教は哲學なりや宗教なりや（下）——近代中國における淨土教・禪宗評價と佛教の脱宗教化」（二〇一八年一月一七日、國際禪研究プロジェクト定例研究会、東洋大学第一會議室）

〈研究プロジェクトへの参加〉

科学研究費助成金「海外の研究者との連携による中国・日本における禪思想の形成と受容に関する研究」（基盤研究（A）17100904） 研究代表者

井上円了記念研究助成・東洋学研究所プロジェクト「東アジアにおける仏教思想の成立と展開、並びにその意義の解明」研究代表者

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・東洋思想文化演習・卒論指導⑥（Ⅰ部、通年）

中国仏教史A（Ⅰ・Ⅱ部、春学期）

中国仏教史B（Ⅰ・Ⅱ部、秋学期）

仏教漢文A（Ⅰ部、春学期）

東洋思想特講ⅡA（Ⅰ部、春学期）

東洋思想特講ⅣB（Ⅰ部、秋学期）

東洋の身体論（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋学期）三回担当

「はじめに」（四月一日）

「回峰行に見る身体と心」（六月二〇日）

「まとめ・試験」（七月二五日）

近代化と東洋（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋学期）三回担当

「はじめに」（九月二六日）

「近代における禪の再発見——胡適・鈴木大拙・和辻哲郎」（二〇月三日）

「まとめ・試験」（二月一六日）

総合ⅧBⅠ（校友会寄附講座、Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋学期）一回担当

「哲学館の後継者たちの活躍——境野黄洋、高嶋米峰など」（二〇月二七日）

東洋大学・井上円了研究（文学部基盤教育科目、Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、春学期）一回担当

「井上円了の仏教思想とその影響」（五月一二日）

大学院・中国仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅳ（前期課程）

仏教学特殊研究Ⅲ・仏教学研究指導Ⅳ（後期課程）

○大学管理運営活動

自己点検・評価活動推進委員会委員（文学研究科、文学部内自己点検・評価委員会委員（東洋思想文化学科）・東洋大学東洋学研究所研究員・編集委員

○社会的活動

（公益財団法人）中村元東方研究所兼任研究員

岩井 昌悟

○研究活動

〈論文〉

学会参加

日本印度学仏教学会第六九回学術大会（東洋大学）に参加、

二〇一八年九月一日～九月二日

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（会員）／日本宗教学会（会員）／日本

佛教学会（会員）／仏教思想学会（会員）／パリリ学仏教文

化学会（普通会員）、日本チベツト学会（会員）／国際井上

円了学会（理事）

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学国際哲学研究センター（センター長・河本英夫「東洋

大学」研究員

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部…東洋思想文化演習⑤（Ⅰ部）

インド仏教史A・B（Ⅰ・Ⅱ部）

サンスクリット語A・B（Ⅰ部）

パリリ語A・B（Ⅰ部）

東洋思想文化への誘いA・B（Ⅰ部・Ⅱ部）

仏教思想特講ⅢA（Ⅰ部）

レポート・論文制作の技法（Ⅰ部）

総合ⅧAⅠ（校友会寄附講座、Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、春

学期）二回担当

「日本をどう考えるのかー井上円了の忠と孝」（五月

二十六日、五時限）

「井上円了の教育と仏教」教育は勸語に基づき、宗教

は仏教を取る」（六月三十日、五時限）

東洋の身体論（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）一回担当

「仏教の身体論」（五月二十三日、七時限）

全学総合IA一回担当

「初期仏教における正義と自由」（七月十九日、五時限）

東洋大学・井上円了研究一回担当

「井上円了の釈迦」（五月十九日、四時限）

大学院…初期仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅲ（前期課程）

仏教学特殊研究Ⅳ・仏教学研究指導Ⅲ（後期課程）

○大学管理運営活動

第一部東洋思想文化学科学科長／井上円了研究センター運営委

員会委員／東洋大学東洋学研究所研究員・運営委員／東洋大

学国際哲学研究センター研究員

川崎 ミチコ

○研究活動

〈学芸発表〉

「敦煌本佛母經と金棺出現図について」第七回三国国際仏教学

術大会（二〇一八年六月三〇日～七月一日・ソウル・韓国仏教歴史文化記念館国際会議場）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

仏教史学会（会員）・日本中国学会（会員）・日本道教学会（理事）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部…中国文学講読A・B（I部・II部）

中国文献学A・B（I部・II部）

レポート・論文制作の技法（II部）

漢文訓読法（I部・II部）

東洋芸術文化特講ⅢA

○大学管理運営活動

東洋大学図書館副館長（白山図書館担当）・学科内会計担当

東洋大学東洋学研究所研究員・東洋大学アジア文化研究所研究員

員

○社会的活動

東洋大学公開講座・文京アカデミア講座「暦・干支に見る中国文化——孟春、仲春とは何ですか？」（第一回六月八日・

第二回六月一日・第三回六月二十二日）

坂井 多穂子

○研究活動

〈論文〉

「乾淳」と「元祐」——南宋詩人は蘇軾をどう見たか——、「日本宋代文学學會報」第四集、二〇一八年五月、九一～一一五頁

〈その他〉

「吉水南溪と『楊誠齋集』——南宋詩人、楊万里的故郷を訪問して——」、「白山中国学」通巻二十四号、二〇一八年三月、三三～四〇頁

〈学会発表等〉

学会発表の司会・大井さき氏（広島大学）「対句表現に見る慶暦期後半の梅堯臣詩」、日本宋代文学学会第五回大会（於慶應義塾大学）、二〇一八年五月二十六日

公開講演の司会・川合康三教授（京都大学名誉教授・國學院大学特別専任教授）「中国の文学・日本の文学」、東洋大学東洋学研究所主催、二〇一八年十二月八日

学研究所主催、二〇一八年十二月八日

学研究所主催、二〇一八年十二月八日

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本中国学会（大会委員会委員）／日本宋代文学学会（理事）

／白山中国学会（理事・会計委員）／中唐文学会（会員）／

中国文史研究会（会員）／日本杜甫学会（会員）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部…東洋思想文化演習ⅡA B（I部）

中国文学講読AB（Ⅰ部）

中国学研究法B（Ⅰ部・Ⅱ部）

漢文訓読法（Ⅰ部）

レポート・論文制作の技法（Ⅱ部）

東洋の身体論（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）一回担当

「中国文学と身体——纏足にみる女性観」（四月二十五日、七時限）

全学総合講義「哲学への誘い」一回担当

「纏足にみる女性観」（六月二十一日、五時限）

大学院・中国哲学研究指導Ⅰ（博士前期課程）

中国文学特論Ⅱ（博士前期課程）

中国哲学特殊研究Ⅳ（博士後期課程）

○大学管理運営活動

文学部外国語委員会委員／文学部入試委員会委員／東洋大学東洋学研究所研究員／東洋大学アジア文化研究所研究員

小路口 聡

○研究活動

〈編著書〉

『語り合う〈良知〉たち——王龍溪の良知心学と講学活動——』

研文出版、二〇一八年二月、全四二二頁＋索引二〇頁 ＊

序論、あとがき、編修を担当

〈論文〉

「良知心学と講学活動」、小路口聡編『語り合う〈良知〉たち』

序論、研文出版、二〇一八年二月、三〇二五頁

「王龍溪の良知心学と講学活動——嘉靖三十六年の「新安福田の会」を中心に——」、小路口聡編『語り合う〈良知〉たち』

所収、研文出版、二〇一八年二月、二四三～二七七頁

〈訳注〉

「王畿「書續溪頴濱書院同心會藉」訳注——陽明門下の講学活動記録を読む（三）——」、『東洋思想文化』「東洋思想文化」東洋大学文学部紀要第71集（東洋思想文化学科篇Ⅴ）、

二〇一八年二月、一〇二八頁

「鄒守益「会語」資料（青原の会）訳注——陽明門下の会語記録を読む 其の二——」、『白山中国学』通巻二四号、二〇一八

年三月、一〇四六頁、吉田公平・早坂俊廣・鶴成久章・伊香

賀隆・播本崇史と共著

〈その他〉

「日本の近代化と道德の問題——西村茂樹の道德会と王陽明後学の講学活動——」、『国際哲学研究』第6号、一六七～

一七九頁、二〇一八年三月

〈学会・研究会発表〉

「語り合う〈良知〉たち——王畿の良知心学と講学活動——」

白山中国学会 第一四回研究発表大会 二〇一八年三月一日

日 於：東洋大学白山校舎 6号館六四一〇教室、＊播本崇

史（東洋大学文学非常勤講師）と共に

「自識 意識」の発見——西村茂樹「心學講義」を読む——
国際哲学研究センター（RCP）主催研究会「儒学者たちの
日本哲学」二〇一八年八月二二日、東洋大学白山キャンパ
ス五一〇四教室

〈学会活動〉所属学会ならびに役職

日本中国学会（会員）、白山中国学会（理事・『白山中国学』編
集委員長）、中国文史哲研究会（会員）、東洋古典學研究会（会
員）、国際井上円了学会（会員）

〈研究プロジェクトへの参加〉

科学研究費助成金「陽明門下の講学活動と「会語」資料に
関する総合的研究」（研究種目基盤研究（B）、課題番号
17H02271）、＊研究代表者

東洋大学国際哲学研究センター（RCP）「西洋自然観との対峙
における日本哲学の形成」、研究員

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・レポート・論文制作の技法（春学期）

東洋思想文化演習Ⅰ⑩AB／中国哲学演習Ⅰ①（Ⅰ部）

中国哲学史AB（Ⅰ部・Ⅱ部）

中国哲学特講AB（Ⅰ部・Ⅱ部）

卒論指導（中国語・中国哲学文学コース代表、Ⅰ部・
Ⅱ部）

全学総合講義「哲学への誘い／世界と自己⑤——儒学
における人間と社会」（五月十七日担当、五時限）

大学院・中国哲学特論Ⅲ（博士前期課程）

中国哲学演習Ⅱ（博士前期課程）

中国哲学研究指導Ⅲ（博士前期課程）

中国哲学特殊研究Ⅲ（博士後期課程）

中国哲学研究指導Ⅲ（博士後期課程）

〈学外〉

東北大学大学院集中講義（中国思想各論／中国思想中国哲学特
論Ⅲ 一五コマ）二〇一八年八月六日～九日

○大学管理運営活動

大学院文学研究科中国哲学専攻長、東洋大学東洋学研究所研究
員・同編集委員、東洋大学国際哲学研究センター研究員

○社会活動

〈講演〉

「人間の本性は善か？——性善説の人間学——」えびす大学（一

般財団法人 社会保険協会主催）、二〇一八年二月二〇日、小

山台会館三階会議室

白井 順

○研究活動

〈論文〉

「一衣帯水論天府之国——中日文化交流考略」、『天府文化研究』

創新創造巻、巴蜀書社、二〇一八年二月四一五〜四二九頁。

「關於鄭齋斗《霞谷集》の第一次編纂工作——沈鎔季震炳興季星齡」、『陽明学研究』第三輯、人民出版社、二〇一八年六月、五三〜六二頁。

〈その他〉

二〇一八年十二月二十五日、東京大学における招聘教授・尹波教授の講演通訳

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本中国学会（会員）・日本道教学会（会員）・東方学会（会員）・朝鮮学会（会員）・韓国思想史学会（編集委員）・白山中国学会理事

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・宗教学ⅠAB（Ⅰ部）

宗教学ⅡAB（Ⅱ部）

中国語ⅠA AB（Ⅱ部）

中国学概論（Ⅰ部・Ⅱ部、春学期）

東洋思想（Ⅰ部・Ⅱ部、秋学期）

大学院・中国哲学演習ⅠAB（博士前期課程）

中国哲学研究指導ⅣAB（博士前期課程）

中国哲学特殊研究ⅤAB（博士後期課程）

中国哲学研究指導ⅤAB（博士後期課程）

○大学管理運営活動

自然科学委員・学部／大学院図書館図書選書担当

沼田 一郎

○研究活動

〈シンポジウム等〉

・「法典のアルタ的要素と実利論のダルマ的要素」共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイニズム—南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」第4回シンポジウム「古代・中世インドの儀礼、制度、社会」東京大学、二〇一八年三月二五日）

・「インド伝統法における〈法〉概念の起源と変容」（基盤研究B「法学提要(Institute)に対する比較法学的総合研究」第2回研究会、二〇一八年一〇月二〇日、東京大学）

〈項目執筆〉

・「ダルマ」（『インド文化事典』丸善出版株式会社、二〇一八年一月三〇日、二〇六〜二〇七頁）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本南アジア学会（会員・英文叢書委員会委員）／日本印度学仏教学会（評議員・会員）／日本佛教学会（会員）／アジア法学会（会員）／国際井上円了学会（会員）／

○教育活動

〈学内担当科目〉

国内特別研究につき、大学院担当科目の一部のみ。

大学院…インド哲学研究指導Ⅱ（前期課程）

○大学管理運営活動

国内特別研究につき、免除さる。

○社会的活動

東洋大学仏教会幹事

野間 信幸

○研究活動

〈基調講演〉

「針生少年の見た武漢の景色」 華中科技大学外国語学院日語専攻設立二十周年記念、二〇一八年九月二十二日、於華中科技大学（武漢）逸夫科技館、（本講演原稿を含む論文集は編集中心につき来年出版）

〈その他〉

「憶塚本照和先生」（張良澤譯）『鹽分地带文学』第七十一期、台南市政府文化局出版、二〇一七年十一月（前年度該誌未着による遺漏）、二二二～二三三頁

「第二十一回日中学院倉石賞」受賞 周而復『長城万里図』翻訳（全六卷十三冊、伊井健一郎代表、第一巻の一部と第四巻上下巻の翻訳担当）、二〇一八年十一月二十四日

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本中国学会（会員）／日本台湾学会（学会賞選考委員）／
天理台湾学会（理事）／日本現代中国学会（会員）／白山中国
学会（会長）／中国文芸研究会（会員）

○教育活動

〈学内担当科目〉

〈学内担当科目〉

学部…レポート・論文制作の技法③《春》（Ⅰ）

中国文学史（Ⅰ部・Ⅱ部）

中国文学演習Ⅰ（Ⅰ部）

中国文学特講Ⅰ（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）

中国現代文学史（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）

総合ⅧB（校友会寄附講座、Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋季）一回担当

「円丁の台湾巡講——南船北馬2（台湾巡講）」十月十五日

大学院…中国文学特論Ⅰ・中国哲学研究指導Ⅱ・中国語学研究Ⅰ（前期課程）

中国哲学特殊研究Ⅰ・中国哲学研究指導Ⅰ（後期課程）

○大学管理運営活動

大学院高等教育推進委員会委員／就職キャリア支援委員会委員・文学部キャリア・就職推進委員会委員／東洋大学アジア

文化研究所運営委員

○社会的活動

アジアセンター21（維持会員）

橋本 泰元

○研究活動

〈論文〉

「グルー・ナーナクの思想における『神の自己顕現』の観念」単

著、『東洋学研究』第五五号、七九～九七頁、二〇一八年三

月三十一日）

〈学会活動〉

日本印度学仏教学第六九回学術大会（東洋大学白山キャンパス、

平成三十年九月一二日、実行委員）

〈所属学会ならびに役職〉

日本印度学仏教学会（理事）／日本宗教学会（会員）／日本南

アジア学会（会員）／日本佛教学会（会員）

〈研究プロジェクトへの参加〉

「南アジアにおける思想的・文化的融合の動態的研究―バクティ

思想を中心として―」（二〇一八年度井上円了記念研究助

研究代表者）

「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」

（二〇一三年度科学研究費補助金「基盤研究（A）」研究代表者

水野善文「東京外国語大学」連携研究者）

「近世南アジアの文化と社会」・文学・宗教テクストの通言語的

比較分析」〈東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究

所共同研究・研究員〉

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部…ヒンドゥー教概論A・B（Ⅰ・Ⅱ部）

ヒンディー語A・B（Ⅰ部）

インド学仏教学演習③（Ⅰ部）

東洋思想文化演習②（Ⅰ部）

仏教の芸能（秋学期、コルディネーター）（Ⅱ部）

文学部伝統文化講座（JDB）「聲明公演」主催（十二

月一日）

大学院…インド哲学研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅲ（前期課程）

インド哲学特殊研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ（後期

課程）

〈学外担当科目〉

大正大学学部…ヒンディー語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（総合）

東京大学文学部・大学院人文社会系研究科…外国語（ヒンディー

語）

○大学管理運営活動

文学研究科インド哲学仏教学専攻長／東洋大学東洋学研究所研

究員・運営委員／東洋大学国際哲学研究センター研究員／教

職センター運営委員／井上円了記念研究助成審査専門委員

○社会的活動

団体役員等

(特財) 大法輪石原育英会評議員

水谷 香奈

○研究活動

〈その他〉

崔鉉植 (水谷香奈訳) 「高麗末の看話禪伝統確立の歴史的背景」

(東洋大学東洋学研究所ほか共編『東アジア仏教学術論集』

第六号、二〇一八年一月十五日、三〇三～三二七頁)

〈学会発表・講演等〉

「平塚らいてうと仏教」(日本印度学仏教学会第六九回学術大会、

東洋大学白山キャンパス、二〇一八年九月二日)

「平塚らいてうの思想―仏教との関わりを中心に―」(東洋学研

究所大型研究公開講座、東洋大学白山キャンパス、二〇一八

年十一月十日)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会(会員)／仏教思想学会(会員)／日本

宗教学会(会員)／日本佛教学会(会員)／東アジア仏教研

究会(会員)

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学東洋学研究所プロジェクト「世界の諸地域における仏

教の哲学的・社会学的研究」(研究代表者伊吹敦) 研究分担者、

東洋大学東洋学研究所プロジェクト「日本文化の背景となる

仏教文化の研究」(研究代表者相楽勉) 研究分担者

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・レポート・論文制作の技法⑤(春学期)

卒論指導②(Ⅱ部、通年)

東洋思想文化演習ⅠA②(Ⅱ部、春学期)

東洋思想文化演習ⅠB②(Ⅱ部、秋学期)

東洋思想文化演習ⅡA②(Ⅱ部、春学期)

東洋思想文化演習ⅡB②(Ⅱ部、秋学期)

日本仏教史A(Ⅰ部、春学期)

日本仏教史B(Ⅰ部、秋学期)

仏教思想特講ⅣA(Ⅰ部、春学期)

仏教思想特講ⅢB(Ⅰ部、秋学期)

仏教漢文B(Ⅰ部、秋学期)

近代化と東洋(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋学期) 一回担当

「戦争と日本仏教」(十一月二十八日、七時限)

全学総合ⅠAⅠ(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、春学期) 一回担

当「唯識思想におけるところと身体」(六月十四日、

五時限)

○大学管理運営活動

東洋大学東洋学研究所研究員／東洋大学国際哲学研究センター

研究員

山口 し の ぶ

○研究活動

〈研究発表〉

「インドネシア、バリ島のヒンドゥー教における『シヴァ・ブツダ』観念の表出―寺院や儀礼における仏教的要素を中心として―」（東洋大学東洋学研究所研究発表例会、二〇一八年十二月二日、東洋大学白山キャンパス）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（会員）／日本宗教学会（会員）／日本南アジア学会（和文雑誌編集委員・会員）／日本佛教学会（会員）／日本西藏学会（会員）／密教図像学会（会員）／東海印度学仏教学会（会員）

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学国際哲学研究センター研究員

〈調査活動〉

インドネシア、バリ島におけるヒンドゥー儀礼の実態調査

（二〇一八年十二月二四日～十二月三十日）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学 部 …

東洋思想文化演習Ⅰ⑦A・B（Ⅰ部）

東洋思想文化演習Ⅰ③A・B（Ⅱ部）

東洋思想文化演習Ⅱ⑦A・B（Ⅰ部）

東洋思想文化演習Ⅱ③A・B（Ⅱ部）

卒論指導⑦（Ⅰ部）

卒論指導③（Ⅱ部）

インド・仏教の美術A・B（Ⅰ部）

インド・仏教の美術A・B（Ⅱ部）

レポート・論文制作の技法（Ⅰ部 春学期）

チベット仏教のあゆみ（Ⅰ部 春学期）

チベット仏教のあゆみ（Ⅱ部 春学期）

東洋芸術文化特講ⅣB（Ⅰ部 秋学期）

総合ⅢB、ⅣB「東洋大学井上円了哲学塾」（Ⅰ・Ⅱ部 乗り入れ、秋学期）一回担当

「井上円了の見た世界」（九月二二日、三、四時限）

近代化と東洋（Ⅰ・Ⅱ部 乗り入れ、秋学期）一回担当

「近代化とチベット」（十月一七日、七時限）

総合ⅧBⅠ（校友会寄附講座、Ⅰ・Ⅱ部 乗り入れ、秋学期）一回担当

「日本の近代化と東洋大学―井上円了の哲学と実践―」（哲学館からチベットへ―明治の取経僧・河口慧海と能海寛）十一月二四日、五時限

全学総合ⅠAⅠ「哲学への誘い」（Ⅰ・Ⅱ部 乗り入れ）

一回担当

「バリ島の宗教における世界と自己」(五月一日、五時限)

大学院：インド仏教研究Ⅳ A・B、仏教学研究指導Ⅱ A・B (前期課程)

仏教学特殊研究Ⅱ A・B、仏教学研究指導Ⅱ A・B (後期課程)

○大学管理運営活動

東洋大学文学部グローバル推進化委員会委員長／東洋大学東洋学研究所研究員／東洋大学アジア文化研究所研究員

渡辺 章悟

○研究活動

〈論文〉

The Origins of the Idea of Three Vehicles in the *Pratyñbhāranīā Sūtras, Reading Slowly: A Festschrift for Jens E. Brarvig*, edited by Lutz Edzard, Jens W. Borgland and Ute Hüsken, Harrassowitz, 2018.1, pp.383-408.

「菩薩と三乗」(The Bodhisattva and the Three Vehicles), *Fo Guang Journal of Buddhist Studies* (《佛光學報》) 第四卷第一期, The Center for Buddhist Studies of Fo Guang University: 台湾, 二〇一八年一月、一～二五頁

「般若経の意図するもの」『東洋思想文化』第五号、東洋大学文

学部東洋思想文化学科編、二〇一八年二月、一～二四頁

「大蔵経の英訳とその課題」『宗典翻訳事業の意味を問うー禅からZENへー (Soto Zen Buddhism International Symposium)』曹洞宗宗務庁、二〇一八年三月、二九～三三頁

「仏教における慈悲と憐愍」『入道研究ジャーナル』第七号、日本赤十字国際人道研究センター編、東信堂、二〇一八年三月、三〇～四二頁

「大乘仏典の伝承者ーdharmabāṇaka (説法師) の位置づけ」『国際哲学研究』七号、二〇一八年三月、六三～七九頁

「大乘仏教の伝承者たちーśāḍpuruṣaをめぐる」『印仏研究』第六七巻・第一号、二〇一八年二月、一～十一頁 (左)

〈編著書〉

『般若経の教理・儀礼・実践の総合的研究』東洋大学東洋学研究所、二〇一八年二月 (東洋大学東洋学研究所プロジェクト 二〇一五～二〇一七年度 研究報告書、二〇一八年二月)

『八千頌般若経』梵蔵、蔵ー梵対照表』平成七(二〇一五)年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (○)「八千頌般若経のデータベース及び言語検索ツールの構築」(研究課題番号 15K02044) 研究成果報告書、二〇一八年二月

『般若心経註釈集成 中国・日本編』共編、起心書房。「総論 中国・日本における『般若心経』の註釈と展開」、二〇一八年七月、一～二五頁

〈学会発表〉

「大乘仏教の伝承者たち——pothisativa, sapnusa, uṭṭarabhāṅka—」日本印度学仏教学会・第六九回学術大会、東洋大学、平成三〇年九月一日（土）

〈特別講義〉

「大乘仏教はどのように起こったのか」（全二回）ZOO法人 村元記念館東洋思想研究所、二〇一八年三月二六日、島根県松江市

「大乘仏教の菩薩とは」東京国際仏教塾、二〇一八年五月二六日、東京大学仏教青年会館

「大乘仏教の説法師」黄檗勉強会、二〇一八年九月二七日（木）、国分寺市・黄檗宗鳳林寺

〈講演・研究発表〉

「大乘仏教の説法者ダルマバーナカ」愛知学院大学・東海仏教学会共催、六月二二日、愛知学院大学日進キャンパス

「寺田福寿と井上円了」井上円了センター研究会、七月二八日、白山校舎六号館、第三会議室

〈その他〉

「大乘仏教概論」『佛教文化』第一八四号（東京国際仏教塾）、二〇一八年八月二〇日、二二六頁

〈学会活動〉

・所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（理事・評議員・企画編集委員・学会賞

選考委員）／仏教思想学会（理事・評議員）／日本西蔵学会（委員）／東方学会（地区委員・会員）／日本宗教学会（評議員）／日本佛教学会（会員）／（公財）東方研究会（兼任研究員）／日本仏教心理学会（会員）／国際仏教学会（ABS（会員）・学会参加等

・学会参加等
仏教思想学会第三三回学術大会、創価大学、二〇一八年七月七日（理事会・研究発表会の司会）

日本印度学仏教学会第六七回学術大会実行委員長、東洋大学、二〇一八年九月一日～二日（二日間、理事会・研究発表）
日本宗教学会第七七回学術大会、大谷大学、九月七～九日、学会参加

東方学会平成三〇年度秋季学術大会、京都大学芝蘭会館別館、十一月一〇日、学会参加

〈研究プロジェクトの主宰及び参加〉

東洋大学国際哲学研究センター（センター長 河本英夫「東洋大学」第二ユニット「課題・宗教の超克と調和に向けて」に所属し、仏教を中心とした多文化・多宗教共生の研究を行う。研究員、運営委員。

東洋大学東洋学研究所プロジェクト「世界の諸地域における仏教の哲学的社会学的研究」（研究代表者伊吹敦 研究分担者「パウッタコーシャ・仏教用語の『日英基準訳語集』構築に向けての総合的研究」文科省科学研究費「基盤研究（A）」（研究代表者・斎藤明「国際仏教学大学院大学」研究分担者）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部：ブッダの思想とその展開 A・B (I・II部)

サンスクリット語 II A・B (I部)

大乘仏教の思想 I (I部、春学期)

東洋思想文化演習 I・II ③ (I部)

東洋思想文化演習 I・II (II部)

文学部総合科目 I (I・II部共通)

・東洋思想文化への誘い A (I部・II部、春学期) 二

回担当

・東洋思想文化への誘い B (I部・II部、秋学期) 二

回担当

・宗教をめぐる諸問題 A・B (I・II部乗り入れ) 二

回担当

・総合Ⅷ A・B (校友会寄附講座、I・II部乗り入れ)

運営責任者ならびに六回の授業担当

大学院：大乘仏教研究 I・仏教学研究指導 I (博士前期課程)

仏教学特殊研究 I・仏教学研究指導 I (博士後期課程)

〈学外担当科目〉

大正大学大学院「MD 仏教学特論 A・B」春学期・秋学期

○大学管理運営活動

東洋思想文化学科第二部学科長／東洋大学東洋学研究所(運営

委員・研究所員)／東洋大学国際哲学研究センター(運営委

員・研究員)

○社会的活動

(公財) 仏教伝道協会・英訳大蔵経編集委員会(委員)・仏教聖

典編集委員会(委員)・助成金審査委員会(委員)／(特財)

大法輪石原育英会(理事)／(公財) 中村元東洋思想文化賞

審査委員会(審査員)／東洋大学仏教会(会長)

二〇一八年度開講科目

・授業名、サブタイトル、担当者の順に記す。

・通年科目はA（春学期）・B（秋学期）に分かれるが、担当者が同一であり、かつ、サブタイトルが春秋通じて同一の場合、その区分は省略して記した。

・ただし、半期のみ授業については《春》《秋》と表記した。

・担当者および《春》《秋》の授業区分に付したカッコ内の数字は、それぞれⅠ部・Ⅱ部の区別を示す。カッコ内の数字が付されていないものは、Ⅰ部Ⅱ部隔年開講の科目か、Ⅰ部・Ⅱ部の担当者が同一であることを示す。

《学部》（五十音順）

東洋思想文化学科

アジアの古典《春》（インドの古典に触れる）

宮本 城

アジアの文学（新しい台湾の文学）

橋本恭子

イスラーム概論《秋》（イスラーム的なものの捉え方・考え方を
知る）

柴山 滋

インド現代思想《春》（インド近・現代宗教思想家の生涯と思想）

宮本久義（Ⅰ）

インド古典思想概論A（ヴィシュヌ派の思想と展開）

三澤祐嗣

インド古典思想概論B（シヴァ派の思想と展開）

三澤祐嗣

インド思想史AB（インド思想と宗教の潮流を概観する）

橋本泰元（Ⅱ）

インド思想史A（インド思想と宗教の潮流を概観する）

宮本久義（Ⅰ）

インド思想史B（インドの叡智を探る）

宮本久義（Ⅰ）

インド思想特講IA（ヒンドゥー教の Tantra とバクティの思想）

橋本泰元

インド思想特講IB・IIA（インドの歴史と文化）

石川 寛（Ⅰ）

インド思想特講IIB《秋》（古代インドの伝統的行法ヨーガと

伝承医学アーユルヴェーダ）

宮本久義

インド思想特講IVA《春》（ジャイナ教の思想と文化）

矢島 道彦（Ⅰ）

インド思想特講IVB《秋》（ベンガル文化の多様性を学ぶとともに、東西に共通するベンガル人意識を探索する）

丹羽京子

インド仏教史A（釈尊の覚りとその展開）

岩井昌悟

インド仏教史B（大乘仏教とは何か）

岩井昌悟

インド・仏教の美術A（仏教の仏と神々の図像学的考察）

山口しのぶ

インド・仏教の美術B（南アジアのヒンドゥー美術）

山口しのぶ

インド舞踊《秋》（インド舞踊・バラタナティヤムの実技と

理論)

久保田幸代

インド文化概論A《春》(パンジャープ地方ノ北インド世界の
悲恋民話の世界を読み語る) 村山和之

インド文化概論B《春》(文学を通して見るインド文化)

宮本 城

韓国語A B

佐藤 厚

韓国仏教史《秋》

佐藤厚(Ⅱ)

漢文訓読法①《春》

川崎ミチコ(Ⅰ)

漢文訓読法②《春》(漢文法の基礎知識)

坂井多穂子(Ⅰ)

漢文訓読法《春》

川崎ミチコ(Ⅱ)

基礎中国語A①《春》(異なる体系との出会い) 多田 恵(Ⅰ)

基礎中国語A②《春》(HSK2級の合格) 吉田雅子(Ⅰ)

基礎中国語A③《春》(中国語初心者のための授業)

橋本恭子(Ⅰ)

基礎中国語B①《秋》(異なる体系への取り組みを進める)

多田 恵(Ⅰ)

基礎中国語B②《秋》(HSK2級の合格)

吉田雅子(Ⅰ)

基礎中国語B③《秋》(中国語初心者のための授業)

橋本恭子(Ⅰ)

基礎中国語A B (初級中国語)

大江千晶(Ⅱ)

キリスト教概論《春》(キリスト教の基礎的知識を身につける

ために、キリスト教誕生までの歴史と宗教思想的変遷を中心

に学んでゆく)

山中英美(Ⅰ)

近代化と東洋《秋》(東洋は近代化をどのように受け止めたか)

〈オムニバス形式〉

伊吹 敦

現代に生きる仏教《春》(人権の歴史をめぐる仏教者のかかわ

りに学び、現代社会の排除と包摂を考える) 高瀬顕功(Ⅱ)

現代のインド《秋》(インド近・現代の政治と社会)

宮本久義(Ⅰ)

坐禅《春》(「いま」を見つめる)

石井清純

サンスクリット語ⅠA B (古典サンスクリット入門)

岩井昌悟

サンスクリット語ⅡA B (実践サンスクリット中級)

渡辺章悟

写経《春》

張堂興昭

宗教学ⅠA (儒教とは何か)

白井 順(Ⅰ)

宗教学ⅠB (道教とは何か)

白井 順(Ⅰ)

宗教学ⅡA (儒教とは何か)

白井 順(Ⅰ)

宗教学ⅡB (道教とは何か)

白井 順(Ⅰ)

宗教学ⅡA B (宗教文化の理解に宗教と言語、道徳)

吉村 均(Ⅱ)

宗教学概論A (多様な教理と実践の世界)

島田茂樹

宗教学概論B (華麗なる文化と芸術の世界)

島田茂樹

宗教社会学A (「宗教」の社会性と個人性)

富澤かな

宗教社会学B (インドの社会と宗教とその理解)

富澤かな

上級中国語A B (中国語の作文)

阿部順子

神道史A (日本中世の仏教と神祇(Ⅰ))

伊藤 聡

神道史B (日本中世の仏教と神祇(Ⅱ))

伊藤 聡

総合ⅧA B ① (日本の近代化と東洋大学―井上円了の哲学と実践―「オムニバス形式」)
渡辺章悟

卒業論文演習《春》(4年間の学習・研究の総決算にむけての指導)
小路口聡 (Ⅰ)

チベット語A (古典チベット語文法)
石川美恵

チベット語B (『法華経 普門品』(観音経)を読む)
石川美恵
山口しのぶ

中級中国語A B (中国語のヒアリング能力を高める)
荒井 礼
白井 順

中国学概論A (現代社会と中国優秀伝統文化)
荒井 礼
播本崇史

中国学概論B (中国文学を鑑賞する)
荒井 礼
坂井多穂子

中国学研究法A (中国哲学研究の基礎知識)
坂井多穂子
野間信幸

中国学研究法B (中国学の基礎知識を学ぶ)
野間信幸
荒井 礼 (Ⅰ)

中国現代文学史A B (中国二〇世紀文学の歩み)
阿部順子 (Ⅰ)
橋本恭子 (Ⅰ)

中国語ⅣA B (中国語の作文)
杉江淑子 (Ⅰ)
権 慧 (Ⅰ)

中国語ⅤA B (中国語中級者のための授業)
多田 恵 (Ⅱ)
多田 恵 (Ⅱ)

中国語ⅥA (中級中国語)
多田 恵 (Ⅱ)
多田 恵 (Ⅱ)

中国語ⅦA (中級中国語)
多田 恵 (Ⅱ)
多田 恵 (Ⅱ)

中国語学演習A B (長文の中国語に慣れる)
吉田雅子

中国史概説A (中華世界の拡大と再生)
竹内洋介
中国史概説B (『華夷一家』への道)
竹内洋介

中国哲学講読A B ① (朱熹『論語集注』学而・為政篇)
播本崇史

中国哲学講読A B ② (『天道溯源』講読)
中村 聡
中国哲学史A B (中国に哲学はあるのか?)
小路口聡

中国哲学特講I A (原典で読む朱子学概論)
小路口聡
中国哲学特講I B (原典で読む陽明学概論)
小路口聡

中国哲学特講II A B (儒家思想を巡る諸問題)
川田 健 (Ⅰ)
中国の美術A (先史―南北朝時代の中国美術)
萩原 哉 (Ⅰ)

中国の美術B (隋唐―明清時代の中国美術)
萩原 哉 (Ⅰ)
中国の美術A B (中国の仏教・道教を中心とした宗教美術史)
田中知佐子 (Ⅱ)

中国仏教史A (初伝期から南北朝まで)
伊吹 敦
中国仏教史B (隋代から現代まで)
伊吹 敦

中国文化史A B (中国思想文化―入門と手ほどき―)
播本崇史
中国文学史A B (宋代以降の文学の諸相)
野間信幸

中国文学講読A B ① (『敦煌文獻』を読む)
川崎ミチコ
中国文学講読A B ② (李白の詩を読む)
坂井多穂子

中国文学特講I A B (台湾の文学を読む)
野間信幸 (Ⅰ)
中国文学特講I A B (中国近現代文学を読む)
近藤光雄 (Ⅱ)

中国文学特講II A B ② (杜甫詩精読)
川合康三 (Ⅰ)

中国文献学 A B

川崎ミチコ

中国文字学 A B

坂本頼之

哲学概説 A (自分の頭で考えて、自分の言葉で伝えるということ)
と)

渡邊郁子 (Ⅱ)

哲学概説 B (自分の頭で考えて、主体的に行動するということ)

渡邊郁子 (Ⅱ)

東西交渉文化史 A (中央アジアの歴史 (前編…古代…前近代))

秋山 徹

東西交渉文化史 B (中央アジアの歴史 (後編…近代))

秋山 徹

東南アジア仏教史《春》(上座仏教における主要経典と基本的

仏教用語、仏教思想の把握、またスリランカ及び東南アジア
諸国における仏教文化の普及とその変遷過程の理解)

藪内聡子

東洋思想《春》

白井 順 (Ⅰ)

東洋思想《秋》

白井 順 (Ⅱ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ① A B (インド思想・哲学とインド文
化の研究) 三澤祐嗣 (Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ② A B (ヒンドゥー教の思想・文化研
究Ⅰ) 橋本泰元 (Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ③ A B (インド大乘仏教の研究)

渡辺章悟 (Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ④ A B (初期仏教研究)

岩井昌悟 (Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ⑥ A B (A 文献の説解 / B 自由研究)

伊吹 敦 (Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ⑦ A B (アジアの芸術文化に関する英
語文献講読) 山口しのぶ (Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ⑨ A B (朱熹『孟子集注』を読む (その②))

小路口聡 (Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ⑪ A B (中国の詩を中国語で読む)

野間信幸 (Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅱ⑪ A (笑話と伝奇を読む)

坂井多穂子 (Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅱ⑪ B (伝奇小説を読む) 坂井多穂子 (Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅱ⑨ A B (『国語』を読む) 川田 建 (Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ① A B (インド大乘仏教の研究)

渡辺章悟 (Ⅱ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ② A B (仏教思想の研究)

水谷香奈 (Ⅱ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ③ A B (アジアの芸術文化に関する英
語文献講読) 山口しのぶ (Ⅱ)

東洋思想文化演習Ⅰ④ A B (新詩を読む) 近藤光雄 (Ⅱ)

東洋思想文化演習Ⅱ④ A B (『国語』を読む) 川田 建 (Ⅱ)

東洋芸術文化特講Ⅰ A 《春》(インド映画論) 宮本久義 (Ⅰ)

東洋芸術文化特講Ⅰ B 《秋》(中国の仏教・道教を中心とした

宗教美術史)

田中 知佐子 (Ⅱ)

東洋芸術文化特講ⅡA《春》(南アジアの音楽文化と宗教思想)

田森雅一 (Ⅱ)

東洋芸術文化特講ⅡB《秋》(バリ島の芸能から人間の創造性を学ぶ)

山本早良紗 (Ⅱ)

東洋芸術文化特講ⅢA《春》(写本・絵図、石窟の壁画・造像に見る中国人の死後世界観について)

川崎ミチコ (Ⅰ)

東洋芸術文化特講ⅢB《秋》(中国伝統演劇の世界)

有澤晶子 (Ⅰ)

東洋芸術文化特講ⅣA《春》(美術でたどる東南アジアの「インド化」)

山口しのぶ (Ⅰ)

東洋思想文化への誘いAB

岩井昌悟

東洋の身体論《春》(ここからだをどう見るか)(オムニバース形式)

伊吹 敦

日本漢学AB (日本では漢学を如何に学んで来たのか)

坂本頼之

日本仏教史A (日本仏教史(飛鳥時代―鎌倉時代))

水谷香奈 (Ⅰ)

日本仏教史B (日本仏教史(鎌倉時代―現代))

水谷香奈 (Ⅰ)

日本仏教史A (日本における仏教のあゆみと社会・文化―仏教伝来から鎌倉仏教(前半)まで―)

橘川智昭 (Ⅱ)

日本仏教史B (日本における仏教のあゆみと社会・文化―鎌倉仏教(後半)から明治時代以後の仏教まで―)

橘川智昭 (Ⅱ)

パリー語AB (聖典に直に触れる)

岩井昌悟

比較宗教A (比較宗教を理解するための基礎知識)

松野智章

比較宗教B (宗教間の接触や宗教間対話の問題)

松野智章

ヒンディー語A (ヒンディー語入門Ⅰ)

橋本泰元

ヒンディー語B (Introduction to Hindi 2)

橋本泰元

ヒンドゥー教概論AB (ヒンドゥー教の思想を学ぶ)

橋本泰元

仏教漢文A (仏教漢文の基礎)

伊吹 敦

仏教漢文B (経典注釈・浄土教文献を読む)

水谷香奈

仏教思想概論A (仏教とは何か)

渡辺章悟

仏教思想概論B (仏教の思想とその展開)

渡辺章悟

仏教思想特講ⅠA《春》(空の世界に何があるのか)

仏教思想特講ⅠB《春》(華嚴経の思想)

渡辺章悟

仏教思想特講ⅡA《春》(禅思想の形成と社会との交渉)

金本拓士

仏教思想特講ⅡB《秋》(密教の思想)

伊吹 敦

仏教思想特講ⅢA《秋》(すべては解脱のために)

金本拓士

仏教思想特講ⅢB《秋》(密教の思想)

伊吹 敦

仏教思想特講ⅣA《春》(唯識の世界)

水谷香奈 (Ⅰ)

仏教思想特講ⅣB《秋》(日本仏教のふるさと)の形成・展開

伊吹 敦 (Ⅰ)

仏教思想特講ⅤA《春》(浄土思想(特に阿弥陀信仰)の形成・展開とその影響)

水谷香奈 (Ⅰ)

仏教思想特講ⅤB《秋》(浄土思想(特に阿弥陀信仰)の形成・展開とその影響)

水谷香奈 (Ⅰ)

仏教思想特講ⅥA《春》(浄土思想(特に阿弥陀信仰)の形成・展開とその影響)

水谷香奈 (Ⅰ)

仏教思想特講ⅥB《秋》(浄土思想(特に阿弥陀信仰)の形成・展開とその影響)

水谷香奈 (Ⅰ)

仏教思想特講ⅦA《春》(浄土思想(特に阿弥陀信仰)の形成・展開とその影響)

水谷香奈 (Ⅰ)

仏教思想特講ⅦB《秋》(浄土思想(特に阿弥陀信仰)の形成・展開とその影響)

水谷香奈 (Ⅰ)

仏教と社会福祉《秋》《いのち》に向き合う仏教者の活動に学ぶ

高瀬顕功 (Ⅰ)

仏教の芸能《秋》(仏教伝統歌謡の基本を学び実修してみよう)

《オムニバス形式》

橋本泰元 (Ⅱ)

ヨーガ《春》(実践をとおして思想を学ぶ)

番場裕之 (Ⅱ)

レポート・論文制作の技法①《春》

岩井昌悟 (Ⅰ)

レポート・論文制作の技法②《春》

山口しのぶ (Ⅰ)

レポート・論文制作の技法③《春》

野間信幸 (Ⅰ)

レポート・論文制作の技法④《春》

小路口聡 (Ⅰ)

レポート・論文制作の技法⑤《春》

水谷香奈 (Ⅰ)

レポート・論文制作の技法⑥《春》

伊吹 敦 (Ⅰ)

レポート・論文制作の技法①《春》

川崎ミチコ (Ⅱ)

レポート・論文制作の技法②《春》

坂井多穂子 (Ⅱ)

〈大学院〉

インド哲学仏教学専攻

博士前期課程

インド哲学研究指導Ⅱ A B

沼田 一郎

インド哲学研究Ⅱ A B・インド哲学研究指導Ⅲ A B

橋本泰元

インド哲学研究Ⅲ A B

高橋孝信

インド哲学研究Ⅳ A B・インド哲学研究指導Ⅰ A B

宮本久義

インド哲学仏教学特殊演習 A B

伊藤 真

インド仏教研究Ⅰ A B・仏教学研究指導Ⅲ A B

岩井昌悟

インド仏教研究Ⅱ A B

松村淳子

インド仏教研究Ⅲ A B・仏教学研究指導Ⅰ A B

渡辺章悟

インド仏教研究Ⅴ A B・仏教学研究指導Ⅱ A B

田中公明

東アジア仏教研究Ⅰ A B・仏教学研究指導Ⅳ A B

伊吹 敦

東アジア仏教研究Ⅱ A B

養輪顕量

東アジア仏教研究Ⅲ A B

林田康順

博士後期課程

インド哲学研究指導Ⅰ A B・インド哲学特殊研究Ⅰ A B

宮本久義

インド哲学研究指導Ⅱ A B・インド哲学特殊研究Ⅱ A B

橋本泰元

仏教学研究指導Ⅰ A B・仏教学特殊研究Ⅰ A B

渡辺章悟

仏教学研究指導Ⅲ A B・仏教学特殊研究Ⅳ A B

岩井昌悟

仏教学研究指導Ⅳ A B・仏教学特殊研究Ⅲ A B

伊吹 敦

中国哲学専攻

博士前期課程

中国哲学演習Ⅰ A B・中国哲学研究指導Ⅳ A B

白井 順

中国哲学演習Ⅱ A B・中国哲学研究指導Ⅲ A B

小路口聡

中国哲学研究Ⅰ A B

中村 聡

中国哲学特論Ⅲ A B

小路口聡

中国文学演習Ⅰ A B・中国哲学研究指導Ⅴ A B

大野公賀

中国文学特論Ⅱ A B・中国哲学研究指導Ⅰ A B

坂井多穂子

中国文学特論Ⅲ A B・中国哲学研究指導Ⅱ A B

野間信幸

中国語学研究Ⅰ A B

野間信幸

中国語学研究Ⅱ A B

川合康三

博士後期課程

中国哲学特殊研究Ⅰ A B・中国哲学研究指導Ⅰ A B

野間信幸

中国哲学特殊研究Ⅱ A B

大野公賀

中国哲学特殊研究Ⅲ A B・中国哲学研究指導Ⅲ A B

小路口聡

中国哲学特殊研究Ⅳ A B

坂井多穂子

中国哲学特殊研究Ⅴ A B・中国哲学研究指導Ⅴ A B

白井 順

二〇一八年度卒業論文題目

インド哲学科卒業論文

〈Ⅱ部〉

村上 正輝

地域包括医療とスピリチュアルケア

佐藤 星宙

ヴァイシエーシカ哲学の存在と無

東洋思想文化学科

〈Ⅰ部〉

三島 佑太

中世人の死生観―源信と『往生要集』を中心に

して―

上原 遥

武帝の政治的思考について

金山 歩美

日韓における唐辛子文化―唐辛子から見る両者の比較―

近藤 愛斗

苔植物から見る日本のわびさび文化

大野 雛子

アマルティア・センの潜在能力アプローチからみるフィリピン の 現地NGO Gawad Kalingaの貧困削減方法の可能性

田中 優奈

『柘榴』から見る冥界との縁組み

栗田 優里

日本の喪服に使用される色とその意味

小川 真音

水滸伝における宋江の矛盾

石津 蓮歩

言語と歴史の観点から見る日本と欧米の違い

石井 涼也

『朱子語類』訓門人篇から現代教育を考える

久保田 珠名

ガンダーラ美術と仏教の起源

小林 亜規

曼荼羅の影響―両界曼荼羅を中心に―

後藤 陸斗

世界に広がるカレー―インドから世界へ―

坂口 乃々

梅蘭芳にみる日中友好関係の構築

坂本 梨穂子

朝鮮半島における食文化の変遷―キムチを中心として―

崎戸 泰地

孟子から見る道德の意義―国の在り方とは―

島津 彩

天才浮世絵師とジャポニスム『北斎漫画』とジャポニスム

島本 怜

日露戦争の精神論と『孫子』

タンラッタナーノン

プラマハブンヤリット

初期仏教における仏在世時の修行者の生活―

Theragatha, Therigathaを中心として―

中谷 旗斗

老子から見た現代社会

長妻 純平

東台阿密における相違

長谷川 瑞紀

中国伝統服飾の文化的価値

晝間 翔登

新海誠映画と中国―『君の名は。』を中心として―

星野 衛

虎の変身譚―中国志怪小説と伝奇小説の比較

堀 慶太

カーストとイギリスによる「カースト自治」政策

松本 真季

新潟を支え続けてきた神社

村岡 瑞希

王義之論

山岸 弘樹	『道』と『玄』の思想 ― 『抱朴子』内篇を中心に
今泉 佳奈恵	中国近代における儒教への批判と再評価
木村 美香子	敦煌仏教寺院の活動について ― 伯2029写本を中心として ―
黒崎 花音	女性往生
齋木 優愛	虚舟に関する資料の比較
齊藤 広菜	アメリカにおける禅思想の受容 ― 鈴木大拙の伝えたもの ―
指方 翠	日本におけるインドの祭典 ― 祭典の動員数を増加させる方法 ―
菅野 有咲	山岳信仰と修験道について
杉山 達哉	カーストにおけるバラモンの立場
丹野 朝佳	敦煌本の十王経の中における閻魔
松本 紗枝	人の「死」とは
生駒 謙次郎	日本甲冑の美術を研究
岩澤 春菜	ムガル建築とオリエンタリズム
大井 裕美子	茶道の歴史と現代のあり方
大賀 謙吾	解脱の手段としてのヨーガ
大竹 悠河	性善説と性悪説の異同についての一考察
小野 由稀	仏教教育を現代に生かす ― 学教教育を中心に ―
木川 恵里奈	孔子の教育思想について ― 人はなぜ学ぶのか ―
北村 尚也	周惇頤の『通書』に見える顔淵と『論語』『莊子』

五代 美咲	韓非の政治理論とマズローの基本的欲求
佐久間 千晴	九相観は女性をどう見るか
富田 麻由	日米開戦における意思決定過程と「空気」
丹羽 利一郎	心の理論から見たASD理解とウイトゲンシユタインによる言語ゲームとの関連性
深田 彩乃	アメリカ映画における日本へのオリエンタリズム進化する道徳
三浦 薫	『日本紀鈔』 ― 分類項目を中心に ―
村田 森朱	朱子学・陽明学と現代日本
築瀬 秀賢	『三国志演義』論 ― 曹操を中心に ―
吉川 恭平	自殺と宗教 ― 自殺の定義とその解釈 ―
吉光 海童	胎蔵界曼荼羅の外金剛部院におけるガネーシヤの一考察
青田 悠介	獣姦からみる特殊性癖の発生、その宗教間における比較
内田 慈生	
岡田 菜津実	映画『千と千尋の神隠し』 ― 込められた伝統思想
神谷 泰輝	ガンディーの平和思想
唐金 千夏	葬儀儀礼と死生観について
今野 雄石	ヨーガ・スートラにおけるサマーディの一考察
塩谷 明星	台湾人作家 龍瑛宗『パイヤのある街』から『蓮霧の庭』へ ― 龍瑛宗の描く果物 ―
豊田 夢	『バガヴァッド・ギーター』における尊主クリシュ

兵藤 海斗	ナとアルジュナの対話の考案 媽祖信仰その起源と軍事利用	北川 洋輔	武士と騎士の差異からみる家紋と紋章の違いとその原因
廣田 晋太郎	チベットにおける観音信仰とタライ・ラマ政權	稲垣 基	解脫論におけるニヤイヤ学派と仏教論理学派の比較研究
光田 俊	現代語訳『論語』からみる新たな表現——孔子と顔回の關係性を中心に	太田 実	ヒンドゥー教における食物規定の根拠
和久井 慧那	中世における畜生道と餓鬼道	進藤 進也	廃仏毀釈と善光寺
大倉 夢叶	インド映画からみるインド	東谷 嘉門	宇都宮餃子とはなににか
清本 茉莉花	唐代におけるキリスト教ネストリウス派の中国流入と「景教」として受容された要因に関する考察	山本 果林	日本の白粉の変遷
清水 悠介	江戸食の永続性と遷移	井本 考祐	近代化と文人画——岡倉天心とフェノロサの文人画評価——
篠田 知希	『孫子』九地篇の校勘について——金谷本と浅野本の比較を通して——	大関 将季	荀子・孟子・韓非子から見る性説論と現代における意義
池澤 拓巳	唐武則天期における仏教勢力の展開	里中 友哉	和装振興の現状と方策
石戸谷 優人	孟子の理想とその現実性——現代にどう活かすべきか——	鈴木 遥	『三国志』における正閏論——日本での受容と展開
鳥毛 美雨	日本におけるキツネのイメージ変化について	五十嵐 康輔	金田一京助と知里幸恵——アイヌ民族が差別されている時代にとのようない想いで二人は『アイヌ神謡集』を書いたのか——
山田 汐織	和紙の未来と課題	岡村 京香	インドにおける不可触民の実態と現代問題
國吉 賀易	中国と日本の正月文化比較——人が行事に託す想いと——	加瀬 あずさ	性善説と性悪説から考えるいじめ問題
黒澤 由依	中国古典小説における狐の形象——「任氏伝」と「聊齋志異」「紅玉」の比較を中心に——	藤井 栄太	近代中国における儒教の批判と復興
根岸 晃輝	諏訪研究と中国哲学——蛙狩神事における蛙の意味について——	望月 安慧	『仏説大乘莊嚴宝王經』における六字真言について
		青木 優佳	三災の比較について

大内 昂樹

インドにおける教育問題——特異性を持つ国家の抱える教育問題を考察する——

金山 相賢

東寺の立体曼荼羅の構成要素について
杜甫の遣興詩について——雁の描写を中心に——

清水 悠希

韓非子の思想から見る現代の日本
虚妄分別の存在論的性格——三性説を中心として——

田邊 大貴

寺崎 大典

シンガポールにおけるムスリム問題と社会的立ち位置

中村 亮太

『アンペードカルと不可触民解放運動
巴金『寒夜』に描かれた二つの女性像

守屋 亮佑

芥川の『蜘蛛の糸』とケイラスの“The spider web”にみる仏教理解の違い

金谷 依津

MKガンディーのヴァルナ観
バクティ 宗教詩人 カビールとミラーン パーイ

高木 杏菜

の詩
「胡蝶の夢」寓話における「物化」「夢」「分有り」
台湾人の宗教観から見る日系新宗教の需要と変遷

細田 祥広

宮崎 貴弘

須田 晴香

田中 朋寛

〈Ⅱ部〉

高島 顕彰

間瀬 さくら

砂長 潤

神仏習合
女子十二楽坊が日本に及ぼした二胡における影響
混成——映画『KANO』からみる台湾——

永友 涼

佐藤 亜美

釵地 洗希

長谷川 理留子

菊池 聡美

山田 貫太

吉川 周平

林 拓哉

八木 龍一

松本 仁叡

森田 晃成

黒川 翔太

野坂 勇斗

大学院インド哲学仏教学専攻修士論文

針貝 京子

カムピラー アイラダー

是松 宏明

「酒」が白居易にもたらした幸福とは
杜甫の送別詩——梓州時期を中心として——
トンパ文字に見る日本への可能性——現代日本への可能性——
羅から参詣曼荼羅まで
創価学会における死生観
影絵芝居におけるラーマヤーナ
伝統仏教と現代日本人の死後世界観
日本における「孝」の受容とその展開——現代日本の家族関係を考える——
宮沢賢治の作品に見られる東洋思想
人道主義を現代の社会生活に組み込む——性善説の可能性——
覚如の生涯
「書物」の編纂について——紙媒体の今後——
親鸞聖人の安心

インド密教におけるターラー女神の研究

アイラダー

パリ文献における四諦十六行相の成立の研究

ジャイナ教の瞑想の研究——空衣派シュバチャン

ドラ著『ジュニヤールナヴァ』におけるタン
トラ思想について――

高木 洋介

アーリアデーヴァに於ける否定の思想―『四百論』
第十六章に於ける主張 (pakṣa) について中心に
――

星宮 康子

インドの寿命論

蓮見 太朗

『ブッダヴァンサ』におけるabhisamayaと
sammipātaの研究

大学院中国哲学専攻修士論文

李 慧淳

「頑主」の人物像に表れた王朝の意識

于 森

日中戦争中の老舎小説における「葛藤する思考」
について―『四世同堂』を例として

樊 玉文

樂府詩「陌上桑」の系譜